

インドネシア 金融政策会合

3カ月ぶりの利下げで、景気回復に向け政策を総動員

2020年6月22日

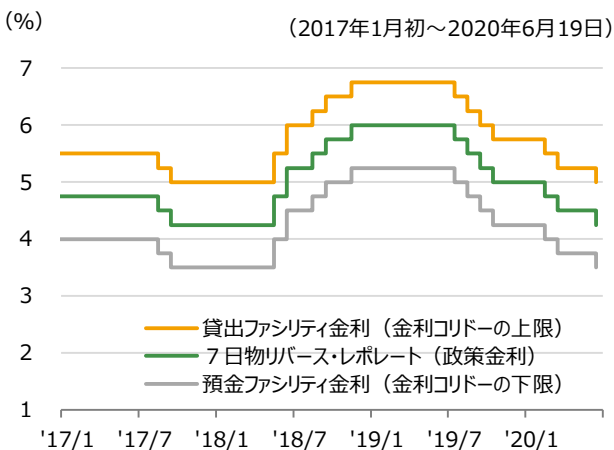
追加金融緩和により、財政刺激策実行の遅延を補う

6月18日（現地、以下同様）、インドネシア銀行（中央銀行）は、3カ月ぶりに政策金利である7日物リバースレポートを0.25%ポイント引き下げ、4.25%にしました。これで、政策金利は、2017年に記録した過去最低水準に並びました。4月以降、国内外の金融市場が不安定な中、中銀は為替レートの安定を維持するため、追加利下げには慎重な姿勢を取りました。しかし、6月に入り、インドネシア・ルピアの対米ドルレートがコロナ禍前の水準近辺まで回復したことで、利下げ再開の土台が整いました。

中銀は、経済見通しに関しては、2020年の実質GDP成長率を+2.3%から+0.9~1.9%のレンジへ引き下げましたが、7-9月期からは景気回復に勢いがつくとの見方を示しました。また、インフレ率に関しても、3±1%の目標レンジ内に収まるとの楽観的な見方を継続しました。このような見通しを基に、今後の政策スタンスについて、中銀は「マイルドなインフレ圧力、対外安定性の継続、経済成長を刺激する必要性に沿って、金利を引き下げる余地を模索する。」と、利下げに前向きな文言を声明文に盛り込みました。今後も、高めの実質金利などを勘案して、0.50%ポイントの追加利下げが行われると見込みます。

一方で、財政政策に関しては、ムルヤニ財務相が5月中旬に新型コロナウイルスに対する「国家経済復興プログラム」を発表しましたが、足元では、執行率が低いとの声が強まっています。6月半ば頃から移動制限が段階的に緩和される中で、支援策実行の滞りは、経済活動再開の加速に水を差す可能性があるかと懸念されます。このような環境の中で、中銀が積極的な金融緩和の姿勢を明確に示したことは、市場に安心感をもたらします。さらに今後「国家経済復興プログラム」の実行加速につれ、中銀と政府の政策総動員による景気回復が期待されます。

インドネシアの主要政策金利



(出所) インドネシア銀行、ブルームバーグ

インドネシアの為替レート



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。